

日本にいる日本にいない鳥

飼鳥として国内に存在する非在来種鳥類の調査

応募者 西田澄子

【背景】

日本ではもともと日本に生息していない色々な種類の鳥が飼われています。多くの鳥は飛翔能力が高いため、何らかの理由で飼育環境から逃げ出してしまうと回収が非常に困難です。このように飼鳥が外に逃げしてしまうことを「籠抜け」と言いますが、飼鳥が籠抜けすると、逃げた飼鳥にとってはまさに生命の危機、大事な飼鳥を失った飼主にとっては大きな喪失感と後悔、生態系にとっては未知の影響と外来種侵入の可能性と、まったく良いことはありません。

飼鳥は、研究施設（研究用）、動物園や公園（展示用）、生体問屋・ペットショップ・ブリーダー（販売用）、家庭（愛玩用）など色々な場所で飼育されています。このうち、飼鳥の籠抜けが多数発生していると考えられる、家庭からの籠抜けの発生件数について、2018年に調査を行いました*。2018年1月～2018年12月の間に確認された飼鳥の籠抜けは、3,000羽以上、41種類以上にのぼりました。この数は、逃がしてしまった飼主さんたちが一生懸命見つけようと努力した飼鳥の数なので、実際にはもっと多くの飼鳥が外に出てしまっていると考えられます。

このように、籠抜けする飼鳥の数が予想よりはるかに多かったことから、飼鳥の籠抜けの問題は、飼育技術の問題としてとらえるだけでなく、生態学的側面からも考える必要があるのでは？と感じています。そのため、今回は定量的調査を進めるとともに、前回ほとんど把握できなかった猛禽類についても定性的な調査を行いたいと思います。

* 日本鳥学会2019年度大会ポスター発表

【目的】

次の点を明らかにしたいと思います。

- (1) 実際には、自然界に逃げ出してしまう飼鳥はどの位いるのでしょうか？
- (2) そもそも、日本ではどのような種類の非在来種の鳥類が飼育されているのでしょうか？
- (3) さらに、少しでも籠抜けを防ぐにはどうすれば良いのでしょうか？

【方法】

- (1) 日本全国の籠抜けした飼鳥に関する情報を、SNS、ウェブサイト等及び聞き込み等から収集し、分析します。
- (2) 実際にその個体が日本国内で飼育されている状態で愛玩目的で販売されている鳥類の実地調査を行います。

【期待される成果】

- (1) 日本の生態系への定着に成功するしないに関わらず移入する可能性のある非在来種鳥類の種類を把握すること、および日本の生態系に日常的に移入している非在来種鳥類の個体数を推定することに役立つと思われます。
- (2) 飼育されている鳥類の野外への籠抜けの防止方法を考える際の、検討材料の一つになるかもしれません。

【支援金の使途】

- (1) 実地調査等の交通費
- (2) 収集したデータを保存するためのストレージ等の購入などに使わせて頂きたいと思います。

【参考】日本にいる日本にいない鳥例



ウスユキバト (*Geopelia cuneata*)
原産：オーストラリア



セキセイインコ色変り
(*Melopsittacus undulatus*)
原産：オーストラリア



ヨウム (*Psittacus erithacus*)
原産：アフリカ



ブルーコンゴウインコ (*Ara ararauna*)
原産：南米



文鳥色変わり (*Lonchura oryzivora*)
原産：東南アジア

ハリスホーク (モモアカノスリ)
(*Parabuteo unicinctus*)
原産：アメリカ

アフリカオオコノハズク
(*Ptilopsis leucotis*)
原産：アフリカ

その他いろいろ…